

カテーテル使い 心臓弁置き換え



ハイブリッド手術室で行われたTAVI

済生会 宇都宮病院 県内3カ所目

【宇都宮】竹林町の済生会宇都宮病院は1日、カテーテルで心臓弁を人工弁に置き換える「経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）」を初めて行った。

TAVIは、脚の付け根などからカテーテルを入れて、動脈硬化などで機能が低下した大動脈弁に人工弁を装着する手法。同病院は1月、血管撮影装置などを備えたハイブリッド手術室

を新設したことで、TAVIを行えるようになった。

この日は大動脈弁狭窄症の84歳と83歳の女性2人の手術が行われ、心臓血管外科や循環器内科などで組織する「ハートチーム」が執刀した。循環器内科の八島史明医師（35）は「従来の開胸手術では体力的に負担が大きく難しかった高齢者や合併症のリスクのある患者にも対応でき、数日で

退院できる」とメリットを挙げる。

心臓血管外科の橋詰賢一主任診療科長（48）は「TAVIが導入されたことで、治療の選択肢が広がる。市内や県北地域を中心に新

たな治療法として認識が広がってほしい」と話した。

TAVIの実施は県内で獨協医大病院、自治医大付属病院に次いで、済生会宇都宮病院が3カ所目。

（武藤久美）